

「羽包み(はくくみ)」

第15号 平成28年12月1日発行

自立援助ホーム「湘南つばさの家」

〒253-0022 神奈川県茅ヶ崎市松浪 1-12-17

TEL・FAX 0467-58-6260 shonan-tsubasa@marble.ocn.ne.jp

〔郵便局での振込みは〕 ゆうちょ銀行 振替口座 00200-5-81277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

〔銀行からの振込みは〕 ゆうちょ銀行 店名：029 当座 0081277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

セカンドステージ

ホーム長 前川 礼彦

湘南つばさの家は12月1日をもちまして、開設11年目に突入しました。

十年ひと昔と言いますが、あれから十年。児童福祉関係者に切望されながらも、県域には存在しなかった自立援助ホームを設立することが出来、今では他団体の設立によって神奈川県内にも8か所のホームが出来ました。少しずつですが広がりを見せています。その間、児童福祉関係者には「自立は施設を出てからが本番」「社会に出てからこそ支えが必要」と訴え続け、一昨年には神奈川県の委託事業「退所児童等アフターケア事業(あすなろサポートステーション)」も設立することが出来ました。少なからず児童福祉に貢献出来たのかもしれない。

十年前、この湘南の新天地で、夫婦共々心細くスタートしたつばさの家も、今ではスタッフも増え、夫婦中心の支援からチーム支援に切り替わっていきました。応援して下さる支援者の方々も今では300名を超えるまでになりました。

住み込んで10年が過ぎました。家庭で暮らす事の出来ない少年達と突然暮らしを共にするというのは、慣れるまで互いが緊張した毎日を過ごしていきます。慣れた頃には年月が経ち、少年達はホームを巣立ち、また新しい少年との出逢いが始まります。時間や休日関係なく仕事の様な生活の様な暮らしは、彼らの存在に元気をもらう事も多いですが、緊張や疲労の蓄積が自身を追い詰めることもあります。「生きる意欲を育む」。その理念を掲げてきました。心に沸々と湧き上がるエネルギーは、温かい安定した暮らしと人の存在が不可欠ですが、人にはその時々年代で人生のテーマに直面し、思いもよらない道を辿る場合もあります。志していた道からは遠回りかと思えることもあります。時にはじっくり活力を蓄え、更なる準備への時間も必要かもしれません。羽ばたき、翔るには、今一度じっくり屈むことも必要です。

人は自身の存在意義をどう感じるか、それは全く千差万別です。どう生きるか。願わくはどの人も自身の生きる証や目的を見つけ、幸せを感じて生きて欲しいと願います。

今日まで、つばさの家を支えて下さった支援者皆様のお力添えがあって、ホームを維持することが出来ました。心からの感謝を申し上げます。

親元で暮らせない青年たちを支える取り組みは、まだまだやるべき事があります。

新たな未来の湘南つばさの家に向けてどうか今後とも宜しく願い申し上げます。



つばさの家 スタッフ紹介

つばさの家には、少年達を共に支えてくれるスタッフ達があります。皆とてもつばさの家らしい温かい人柄のスタッフ達です。今回は次代を担う二十代の若手スタッフの2人を紹介します。謙虚で優しい野田裕人さんと、明るく和やかな牧野真由加さんです。現在はこの2人に少年たちと第一線で関わってもらい、経験を積んでもらっています。少年たちとの関わりに悩む事もありますが、焦らず諦めずに頑張りたいと思います。

「常勤としての意気込み」

野田 裕人

今年の春より、常勤として勤めさせていただいている野田です。大学生の頃にボランティアを始めてから、約5年の年月が経ちます。あっという間であったと感じる一方、一つ一つを振り返ると密度の濃い5年間でありました。

自立援助ホームはその名の通り、自立を援助するホームです。彼らにとっての自立とは何なのか、どうすればそれを支援できるのか。いつもたくさんの方から様々な見方、考え方を教えてくださり、考えれば考えるほど奥深いばかりです。

自立援助ホームに入居する少年のほとんどが、過酷な体験をしています。家庭で衣食住を与えられなかったばかりか、暴力を振るわれた少年もいます。それに対し恨みが積もる少年も当然います。まず、私がすべきことはそんな彼らを受け入れることなのだと思います。否定され続けた彼らに対して、「あなたはここに居てもいいのだ」というメッセージを送ることが大切なのだと思います。

しかし、彼らは年齢若いといえど家庭で暮らせない以上、社会での自立が課せられてしまいます。彼らは受け入れられなければならない存在でありながら、自立を目指さなければならないのです。それを支援しようとする私には、大きな葛藤が生じるのだと思います。以前、そのことを先輩のスタッフに相談すると、こう教えて頂きました。「そもそも自立援助ホームは矛盾していることをしているんです」と。その言葉の意味を痛烈に身に染みて感じています。

誰かの役に立てる人になりたい。最初はそう願いながらつばさの家に関わり続けてきました。そのためには、人を受け入れる力、人を支え続ける力が必要なのだと感じています。まだまだ力不足で、勉強しなければなりません。つばさの家には、支援者の方、地域の方、他施設の方、そしてつばさの家のスタッフがいてくださいます。周りの方に自分は恵まれており、支えられているのだと感じています。多くの方に厚く感謝しつつ、常勤のスタッフとして応えていきたいです。どうぞ、今後ともよろしくお願い致します。



「つばさのスタッフになって」

牧野真由加

今年度から湘南つばさの家で働かせていただくことになりました、牧野真由加と言います。よろしくお願いたします。湘南つばさの家との出会いは大学一年生の時でした。当時、大学で子ども心理学を勉強しており、何か子どもに関われるようなボランティアなどはないかと探していた際に、湘南つばさの家のボランティア募集の張り紙を見たのがきっかけでした。そこから週に一度ほどのペースでずっとお世話になっていました。湘南つばさの家と関わらせていただく9年になりますが、ずっとボランティアとしてやってきた時と職員として関わらせていただくようになってからは今までとは違った事もたくさん出てきました。一番はボランティアとして関わっていたときよりも日数も時間も増え、今までよりも深く子ども達と関わる事ができるようになってきたこと、今まで見る事ができなかった姿を見ることができるようになったことなどがとても嬉しく思います。一方でボランティアの時にはわからなかった難しさや大変さも沢山感じています。話しを聞く、受け止めることの難しさや、伝えることの難しさなど、自分の未熟さを日々感じ、もっと頑張っていかなくてはと思います。

この9年間の間にもいろいろなことがありました。でも、ふと思い返すと、もうつばさの家には来たくない、もう来るのをやめようと思った事は一度もありませんでした。私にとって前川ご夫妻はとても大きな存在です。何かあってもすぐに声をかけて気にかけてくださり、いろいろなことを教えてくださり、いつも助けていただいています。昔からずっと前川夫妻が目標で、少しでも近づける様頑張りたいと思っています。周りのスタッフの方々もいつも助けてくださり、尊敬している方々の元で働くことができ私はとても幸せだと思っています。

これから先もずっと、前川ご夫妻を目標に、ずっとついていきたいと思っています。まだまだできないことばかりですが、少しでもつばさの、子ども達のために何かできるように、自分自身を磨いて少しずつですが頑張っていきたいと思っています。

コラム



前号で大学進学への支援を募らせて頂いた青年から、近況報告とお礼の手紙を頂きました。支援者皆様のお陰様で、本人は夢を叶える事が出来ました。改めて心より御礼を申し上げます。

支援して下さった皆様へ

日頃から支援して頂き、ありがとうございます。

現在は都内の大学に、一人暮らしをして通っています。約週5日、朝7時から15時頃まで、コーヒー店でアルバイトをして、16時から21時まで授業を受けています。前期では有機・無機・物理化学と、英語、数学、物理、生物などの基礎的な内容の授業がありました。実験が週1回あり、レポートをいかに早く完成させるかが、他の授業の予習復習に影響するので、とても重要です。試験前はとても大変でした。

また、アルバイトは勉強や睡眠時間、体調に影響が出ない様にしていきたいです。本末転倒にならない様、体調管理は気を付けて頑張っていきたいと思っています。(G・J)



あすなろからの便り

～児童養護施設退所者等アフターケア事業「あすなろサポートステーション」より～

児童養護施設を退所して、親元を頼れず自活する少年は県内で年間 100 名近くいます。

その様な少年たちの施設退所後の社会生活を支える相談事業所を平成 26 年度に立ち上げました。

開設当初はつばさの家と兼務で行っていましたが、あまりに幅広い業務とニーズである為、信頼出来る仕事仲間をスタッフに迎え入れ、今年度より事業責任者（所長）として担ってもらっています。

彼の働きは素晴らしく、県内関係者や施設の青年達に瞬間に知れ渡る様になりました。合わせて非常勤スタッフも加入し、少しずつ体制を作られつつあります。つばさの家としては微力ですが、バックアップをしながらこの事業が安定していく様に目下奮闘中です。皆様、ご支援の程宜しくお願ひします。

「あすなろの日々」

あすなろサポートステーション
所長 福本啓介

9年に渡る児童心理治療施設（旧：情緒障害児短期治療施設）での職を辞して、私がこのあすなろサポートステーションで働き始めてからはや1年と半分が過ぎました。

新しい世界へ！と意気揚々と着任した当初は、ほとんど相談の依頼もなく私がやる事と言えばステーション内をくまなく掃除する事と、鳴らない電話の番でした。私のキャラクターなのか、そう長くはじっとしていられなかったのもあって、少し外に出ることにしてみました。それは、行政から実績を問われるあすなろサポートステーションの事業の周知のための広報活動及び、様々な他支援機関との関係構築でした。

すでに少ないながらも相談に繋がっていた青年たちとの関わりや、自立に向けてのサポートを行いながらの外回り営業の日々。その頃に出会った青年たちはケース数こそ少ないながらも、ホームレス状態に陥っていたり、シングルマザーながら水商売で何とか生計を立てていたりと、あきらかに精神的な症状を発症していたり、仕事も住居もお金も繋がりも失っていたりと、かつて神児研（神奈川県児童福祉施設職員研究会）の調査研究委員会が調査した結果に違わぬ困難なケースばかりでした。

営業活動の成果が出始めたのは夏ごろからでした。県内各児童養護施設から、児童向け研修や職場体験のプログラム、職員研修の講師の依頼を多くいただけるようになりました。施設職員の皆さまや在園中の子どもたちに私たちの存在を知ってもらうことで「退所後の支援に繋がっていければ」という一心で、次々と開催しました。

その中で徐々に施設職員さんから、「こういった児童の相談で、あすなろに連れて行きたいのだけど・・・」といったお話をいただけるようになりました。いただいた仕事は絶対に断らない姿勢を貫きました。大きな講演会や研修会の講師も務めたり、様々なメディアに紹介されたりもしました。相談数は増加の一途をたどり、平成27年度中に受けた相談数は年度末集計で延べ1116件。平成28年度現在も相談数は増加傾向にあります。最近の仕事の断り方と休日の取り方を勉強中なのですが、どうも私には難しい問題のようです。

とかく後ろ盾のない広域かつ横断的なアフターケア事業において、もっとも大切にしているのは「相談で繋がった青年と対話しながら、本来あるべき支援に丁寧に繋げていく、そして繋がった細い線を切らずに在り続ける」姿勢。そんな寄り添いの姿勢の中で、施設の担当職員さんをはじめとした今まで青年に関わってきた様々な方の熱い想いに触れ、そしてこれから関わっていく職場や他支援機関のあたたかいサポートに触れ、私たちはその間で温度調節をそっとさせていただく。いずれ青年たちが「繋がり」を糧に、その一步を踏み出すようになった時が、もっとも感動の瞬間です。

お繋ぎするのが私たちの存在価値であり、その狭間を埋めるようなネットワーク作りやコーディネート、個々への寄り添いこそアフターケア事業の本筋だと考えています。青年たちの自立に向けて、「人繋がり」で「ひと繋がり」へのサポートを！



(左より矢野・福本・前川)

「私にできることを探して」

相談員 矢野 綾沙

あすなろサポートステーションでの勤務が半年を過ぎました。学生の頃は児童養護施設の職員になりたいと考えていましたが、実習やアルバイトを通じてアフターケアに興味を持ち始めました。大学を卒業し、あすなろサポートステーションに飛び込んでいきましたが、自分の持つ知識や考えでは及ばないほど毎日が精一杯で刺激的でした。

まずはあすなろに来ている卒園生と仲良くなろうという気持ちでいっぱい、関係づくりに励みました。徐々に子どもたちと親しみを感じられるようになり、支援もいい方向に進んでいると思っていました。しかし、そんなに簡単なものではなく、ある時急に連絡が取れなくなってしまったり、八つ当たりされてしまったりと「なんでこうなってしまったんだろう。」と思うようなこともありました。よく考えてみるとたった数か月の関係でうまくいくと思っているのが間違いで、彼らには今まで過ごしてきた道があり、そんなところに私が思う道に乗せようとするのは違うのだと痛感しました。寄り添うことや受け止めること、「あなたは どうしたい?」「そうなんだね。」と言葉では委ねながらも相手の声や気持ち、表情に傾けることの大切さを知りました。

知識や経験はまだですが、そんな私でもできることを大切に、私自身も「あすなろ」で成長していきたいと思えます。



(あすなろの食卓。週末には青年たちと夕食を囲みます)

募集!

あすなろサポートステーションを利用する青年たちを支えるには、スタッフ体制を充実させていく必要があります。共に支えて下さるスタッフを募集しています。(つばさの家でも同時募集中) また、物品、金銭支援の募集をつばさの家では行っています。あすなろサポートステーションを支える為、ご支援頂けましたら幸いです。

10年を振り返って ～これまでとこれから～

前川知子

10年…正直、とても長かったです。特にしんどかった開設初期の頃は遙か昔に感じられます。

これまでは前川夫婦が住込んでいて、ここにいる事が当たり前の暮らしでした。ここ数年はお互いが忙しくなり、家を空ける事も以前より増えてきました。昔は毎日食卓にいたので、いないと不安定になる子がいました。今は何とかなります。

良い意味でスタッフが育ち、つばさの家の文化も継承されていっていると感じます。

ホームの名前を決める時、自分達の名字をとって「前川ホーム」にしなかったのには理由があります。長くこのホームが続いて欲しいと思ったからです。人として彼らと繋がっていくことは当たり前ですが、同時にこの場所を守る事も必要だと常に思ってきました。これから先ここを必要としている子の為に、ここで育った子の為に。その思いは今でも強くもっています。

彼らに対する想いは変わらずあります。大変な環境で育ってきた事実は消えないけれども、これから先の人生は自分次第である事、迷ったり苦しくても側に誰かが居る事、失敗する事が悪い事ではない事、色々な事を彼らに伝えていきたいという思いは変わりません。ただ…ここ数年、少しですが、このままで良いのだろうかという思いを感じています。積み重なったものなのだと思います。

防災の勉強をしていく中で、ハッと気付かされた事があります。災害が起きた時、自分の命を守る事が1番だという事です。そして次は家族。自分の命なくして人を助けられないからです。その通りだと思います。私は自分の命を守れているのだろうか、家族の命を守れているのだろうか。そう考えた時、胸を張ってYESとは言えませんでした。

許されるならば、もう少し家族と向き合い、自分の時間も大切にしながら、日々を過ごしていきたいと思っています。

つばさの家で働いていて自慢したい事があります。スタッフが長く続けている事、全員がとても気持ちが良く向上心にあふれている事。次の世代のつばさの家が、変わらず温かいものであるように、伝えられる事は最大限伝え、彼らの個性も活かしつつ、共に働き、見守っていきたいと思っています。



支援の継続をお願いします!

いつもご支援ありがとうございます。自立を目指す少年たちを支えていくためには、皆様からのご支援の継続が欠かせません。ご支援をして下さる方は当支援会の会員（無料）として、今後もつばさの家の活動報告をさせていただきます。

物品のご支援

ホームでは食品に関するご支援を継続募集中です。現在ホームで切らしているものは「トイレトペーパー」「鶏ガラスープの素」「洋風だしの素」「味噌」です。食品保存用のラップやアルミホイル、食器用洗剤、洗濯洗剤、タオルなどの生活消耗品は何でも助かります。また、野菜が高騰しており、野菜や果物等もありがたいです。朝食にはヤクルト、ソーセージ、パン、ヨーグルト、野菜ジュース等を出しているのです、そういった軽食も助かります。

1人暮らしをしている青年達が毎年、増えていきます。体調を崩すと収入に直結してしまう危うさがあります。きちんと食べて睡眠をとっていれば何とかできるのですが、食べる事を怠る子が多くいます。仕事で忙しく、きちんとした物を作れないようです。レトルト食品や材料をいれて混ぜるだけという手軽な食品は人気です。年に数回、小包で届けるのですが、どの子もお礼の連絡をしてくれています。大好評です。そういった品物があれば送って頂けると助かります。

また文具、おもちゃ、マンガ、雑誌、ゲームソフト、楽器やスポーツ用品などがあると少年達の余暇も充実します。定期的にフリーマーケット等にも出店しておりますので、バザー用品も助かります。

家庭教師募集

つばさの家に入居するまでは生きる事に精一杯の環境で過ごしていた子がほとんどです。生活と仕事安定していくと、自分の将来を考え始め、資格にチャレンジする子たちが何人かいます。今までも高卒認定・自動車免許・介護福祉士に合格した子は何人もいます。現在ファイナンシャルプランナーや宅建、行政書士、保育士等の資格を取りたいと言っている子がいます。どなたか資格をお持ちの方でお時間を作って頂ける方がいらっしゃいましたらご登録させて下さい。ご連絡お待ちしております。

経済的なご支援

現在つばさの家では、進学者への足らざる学費や生活費の一部を支援者様からのご寄付で賄っております。（前号で募集した目標金額は達成しました。有難うございました。）少年たちの夢の実現に継続的にお力を貸して下さい方を募集しています。またスタッフの育成の為に今まで以上に人件費も捻出しなければなりません。志ある若手スタッフ達の待遇を保障するために歳末寄付を募集します。定期送金も大変助かります。宜しくお願い致します。（送金先は表紙記載の口座です。寄付控除の領収書も発行出来ます。）

（編集後記）

毎回支援して下さい方をインシヤルで載せていましたが、紙面の関係で割愛させていただきます。大変申し訳ございません。皆様からの温かい思い、いつも心から感謝を致しております。

○発行責任者：湘南つばさの家 前川礼彦 ○編集：川島さよ子様（支援者）